

サービス推進室では、医療安全に関する情報を収集し、看護業務で役立つポイント等を付加して提供しています。点検ツールとしてお役立てください。

## No.1

公益財団法人日本医療機能評価機構医療事故情報収集等事業より医療安全情報 No.190<sup>1)</sup> (2022 年 9 月)で膀胱留置カテーテルの接続口の選択間違いが公開されました。

医療安全情報 No.190 では、膀胱に注入する処置の際、誤って膀胱留置カテーテルの固定用バルーンの注入口に多量の生理食塩液を注入した事例が 4 件報告されています(集計期間: 2019 年 1 月 1 日~2022 年 7 月 31 日)。膀胱留置カテーテルの固定用バルーンと固定用バルーンに注入した量が表 1 のようにまとめられています。

表 1

[part\\_61.pdf](#)

また、これまで、膀胱留置カテーテルの取扱いに関連した医療事故として、接続口の選択間違い以外にも、尿道内バルーン拡張による尿道損傷を起こした事例等が報告されています。2018 年 6 月に発信された医薬品医療機器総合機構 PMDA 医療安全情報 No.54「膀胱留置カテーテルの取扱い時の注意について」<sup>3)</sup>では、膀胱留置カテーテル挿入時の注意点等がまとめられています。あわせて活用ください。

PMDA 医療安全情報 No.54「膀胱留置カテーテルの取扱い時の注意について」

 <https://www.pmda.go.jp/files/000226090.pdf>